

国際公共政策研究センター
主任研究員 神野

メドベージェフ政権の優先課題(6):2011年～2013年の予算編成方針

2010年6月29日、メドベージェフ大統領は国家院において予算教書演説を行い、2011年～2013年の予算編成方針を明らかにした。

昨年5月の予算教書演説¹では、経済危機対策が最優先課題として挙げられていた。これに対し今回は、ロシア経済が危機から脱却し回復の兆しが見え始めていることから、重点が変化し、①経済全体の近代化、②効率性向上、③国際競争力強化、④長期的安定的発展のための基盤形成、⑤投資環境改善の5点が予算政策により実現すべき目標とされた。特に近代化達成へ向けFDI誘致のためのマクロ経済の安定、イノベーションの支援、高度人材育成などの項目が強調されている。

特にイノベーションについては、最近メドベージェフ大統領が特に力を入れている「ロシア版シリコンバレー」、スコルコヴォ・イノベーションセンター²建設と、大統領直轄の「経済近代化と技術的発展委員会」が進めるプロジェクトに対し重点的に予算を配分する方針が明らかにされている。海外からのFDI誘致のためのインセンティブも拡充すると同時に、競争政策遂行、財産権保護、行政障壁の除去など投資環境の改善に注力することがここにおいても言及されている。

ロシアの国家財政は2008年に改革後初めて赤字となり、赤字幅はGDPの7.9%に達した。このため昨年の予算教書演説でも財政赤字削減が強調されていたが、今年はG20諸国と歩調を合わせ2013年までに財政赤字を2009年の半分以下に削減するという目標が掲げられた³。財政赤字の削減のため、税制の見直しと政府保有資産の削減の方針が打ち出され、後者については大統領から政府に草案提出が指示された。

¹ 2009年5月25日に行われた予算教書演説における「2010年～2012年の予算編成方針」の重点項目は以下の通り。①社会的支出コミットメントの完全実行、②財政赤字削減、③コスト削減と予算の効果的執行、④産業・金融システム支援、⑤公的サービスの質的向上、⑥公共調達システムの改善、⑦起業及び研究開発の促進、⑧予算の効率的執行及び権限委譲、⑨年金システム改革、⑩バリアフリー環境構築

² モスクワ郊外のスコルコヴォに科学研究都市を建設する構想。ロシア政府が約1億9,000万ドルを投資し、様々な優遇策を講じて世界的企業の研究開発拠点を誘致しロシアのイノベーションの発展の拠点としようとするもの。シスコ・システムズが約10億ドルを投資して研究センターを建設することを表明しているほか、NOKIAやボーイング等の企業が進出を決定している。

³ 2009年の財政赤字はGDPの5.9%に縮小した。財務省の計画では、この比率を2011年:3.6%、2012年:2.4%、2013年:1.5%に縮小させる。

年金支出に関する政府コミットメント完全実施方針は維持されており、公的セクターの職員と軍人の給与等について来年から物価スライド制を導入することが明らかにされると同時に、社会保障、ヘルスケア、人口政策の重要性が言及されている。そして、公務員給与を引き上げる代わりに20%の人員削減というドラスティックな方針が打ち出され、これについても大統領から政府に対し原案作成が指示された。

なお、2010年第1四半期のロシアの実質GDPは前年同期比プラス2.9%と08年08年第3四半期以来6期ぶりにプラス成長となったが、メドベージェフ大統領はこれを政府の危機対策の効果はあるとしても、「現下の経済情勢の改善は石油価格の上昇に支えられた一過性のものである」として、「ロシア国民がそれに慣れて過去と同様に自己満足に陥ってしまうとロシア経済近代化のチャンスを逃すことにつながる」と惰性に陥ることを強く戒め、イノベーション的発展への取り組みの強化することを訴えている。

以下、予算編成方針の概要。

【2011年～2013年予算編成方針:項目】

1. マクロ経済安定、財政赤字削減
2. 予算政策と国家優先課題の一致
3. 危機対策からの脱却と具体的結果を出すための予算支出
4. イノベーション投資支援
5. イノベーション人材育成
6. 社会的支出による弱者支援
7. 国民の健康増進と人口動態の改善
8. 軍備近代化
9. 税制見直しと政府保有資産削減による財源確保

【内容】

1. 前提及び全体的方針

- ・ マクロ経済状況は昨年来目覚しく改善した。明確な成長軌道に復帰し金融システムも安定化した。これは政府の危機対策措置の効果である。
- ・ 社会的支出による弱者支援及び雇用支援措置が効果を上げ、社会の安定を維持した。
- ・ しかし、依然としてロシア経済の天然資源マーケットへの過度の依存体質は変わらず。
- ・ ロシアは近代的技術開発、エネルギー効率改善、環境保護、経済の効率化、ハイテク生産のための労働者の能力向上及びイノベーションプロジェクトの必要条件、インセンティブ構築ができていない。
- ・ 現下の経済情勢の改善は石油価格の上昇に支えられた一過性のもので、ロシア国民がそれ

に慣れ自己満足に陥る危険性がある。それはロシア経済近代化のチャンスを楽しむことであり、決して許されない。

- ・ 予算政策の大目的：①経済全体の近代化、②効率性向上、③国際競争力強化、④長期的安定的発展のための基盤形成、⑤投資環境改善

2. 具体的課題

(1) マクロ経済安定、財政赤字削減

- ・ マクロ経済の安定を確実なものとし、インフレ率を低下させる。
- ・ 財政赤字削減：2013年までには2009年の半分以下に削減する。
- ・ 財政赤字削減はG20諸国共通の課題だが、我が国にとっては予算システムの安定性維持のため絶対的に必要である。

(2) 予算政策と国家優先課題の一致

- ・ 予算政策を国家優先課題に厳密に一致させることが極めて重要。
- ・ 予算は危機の経験を生かし、長期的な発展予測に基づいて作成されなくてはならない。

(3) 危機対策からの脱却と具体的結果を出すための予算支出

- ・ 予算システム全体作業が具体的な結果を出すよう方向付けされなくてはならない。
- ・ 国家の戦略的発展の達成という目的に向けたアウトプットを重視した予算配分。
- ・ 危機対策から徐々に脱却し、2012年からは連邦予算の大部分を長期的政府プログラムに支出する。

(4) イノベーション投資支援

- ・ 予算を大規模なイノベーション投資支援に重点配分する。
- ・ FDI拡大はマクロ経済の安定性、競争政策、財産権の保護、行政障壁の水準等にも拠ることは当然だが、イノベーションへの財政的インセンティブは不可欠である。
- ・ 政府が民間投資家や企業家とリスクをシェアすることが重要。このアプローチをスコルコヴォ・イノベーションセンター建設においても採用する。
- ・ スコルコヴォ・イノベーションセンターに特別の法的レジームを適用し、科学、起業等活動を支援する。
- ・ 経済近代化と技術的発展委員会のプロジェクトに優先的な予算配分を行う。
- ・ 予算を支出した項目については、効率的な執行とプロジェクト遂行の管理を強化する。
- ・ 最優先課題：ロシア国民の90%がブロードバンドインターネットとデジタルテレビサービスにアクセスできる環境を作ること。

(5) イノベーション人材育成

- ・ 高度な能力を持った労働者、才能ある科学者育成が課題。
- ・ 国家的研究機関、連邦大学の発展、専門的職業訓練学校の改革、新教育イニシアティブ実施と企業の参画を促進する。

(6) 社会的支出による弱者支援

- ・ 年金等社会保障給付を全額支給する義務を無条件に遂行する。これにより社会的セーフティネットの有効性を確保し、家計を支援する。
- ・ 公務員の労働補償基金を増額する。その代わりとして、政府に対し公務員人員 20%削減案の提出を指示する。それによって節約された予算を、結果を残した者の報酬に充てる。
- ・ 公的セクター職員及び軍人給与に来年から物価スライド制を導入し 2011 年 4 月 1 日から賃上げを行う。
- ・ 連邦政府機関の労働者補償基金の増額及び連邦自立機関への補助金増額を行う。
- ・ 2011 年 9 月から検事、検察職員報酬を引き上げ。

(7) 国民の健康増進と人口動態の改善

- ・ 国民の健康増進と健康的なライフスタイルの普及を目的とするプログラムの開発及び実施。
- ・ 過去数年間に現出した好ましい人口動態のトレンド⁴維持をこの領域における最優先課題とする。
- ・ 医療セクターの改善、遠隔医療等最新技術の導入。
- ・ 母親と幼児死亡率引き下げに関する国際的イニシアティブに参加。

(8) 軍備近代化

- ・ 2012 年から軍隊近代化のための新プログラムを開始する（10 年計画）。
- ・ 軍隊に最新鋭の武器、軍事技術を装備するための予算配分
- ・ 「軍事産業改革連邦ターゲット・プログラム」を実施する。最新鋭の兵器研究資金を援助する。

(9) 税制見直しと政府保有資産削減による財源確保

- ・ 税制見直しについては慎重に検討する。
- ・ 新技術開発、新しいソリューションをもたらす人々を支援する方向での税制改正を検討。
- ・ 徴税管理の改善及びタバコ、アルコール税を引き上げ。
- ・ 政府保有資産のシェアを引き下げ、必要な財源を確保する。政府はこの点についての提案を出すように指示する。

3. 終わりに

- ・ 近代化課題は国民全員のものであり、国民 1 人 1 人がこの取り組みにおいて確固たる結果を出すように努力しなくてはならない。それこそが成功に至る唯一の道である。

以上

⁴ ロシアの人口はソ連邦崩壊以降減少傾向が続いていたが、2009 年に減少幅が前年比 31%縮小するとともに、出生率が上昇に転じるなど、改善の兆しが見えている。